

[ラルフ・W・ハリス]「聖霊」

I. 聖霊の性質

ヨハネによる福音書 14:16-18、26、15:26、16:7-14

ペンテコステの日以来、聖霊の働きは地上において顕著に現わされている。特に過去半世紀において、それはめざましく、私たちが聖霊の注ぎはイエスの再臨のしるしの一つであるということを知る時、これは容易に理解されるのである。



これらの時代のいちじるしい聖霊の働きにより、聖書が三位一体の神の第三位なるお方について記している事柄が信者に十分示されている。聖霊を探求する者には豊かな祝福が約束されている。1)キリストは聖霊によって御自身を世に現わし、2)聖霊によって教会を力づけられる。そこで私たちは聖霊について十分に知らなければならない。

しかし、聖霊による恵みは、ただ聖霊について知りたいと願うことによってもたらされるものではない。そこには、もっと深い動機がなければならない。サタンは自分の時が短いことを知って、神と神の大いなる御旨（みむね）に逆らって働いている。彼にとって必死の抵抗の時なのである。このような時こそ、信者たちは神の力と聖霊の油注ぎを必要とするのである。聖霊の超自然的な力は兵器庫を備え、私たちがサタンの力をうち破ることが出来るようにしてくださっている。

ここで注意しておくことは、私たちが聖霊の性質と働きを学ぶに当って、ただ知識を得て満足してはならないということである。もし私たちが聖霊のすべてを知りながら、なお聖霊が与えようとする恵みと力とを体験することが出来ないとしたら、それは何と悲しむべきことであろうか。私たちは祈り深く、聖霊が神の民になそうとしていることのすべてを得ようと、心を定めようではないか。

■ 聖霊の人格

多くの人たちは、聖霊は、ばく然とした感化力であるという誤った考えを持っている。彼らは聖霊をさして、「それ」とさえ言っている。これほど大きな誤りはない。聖霊は人格であり、三位一体の神の第三位なるお方なのである。人格そのものには外見的な形態は要しないが、ある種の要素---知性、感情、意志---はつねに見いだされる。聖霊はこれらのすべてを持っている。

- **聖霊は「知性」を持っている。**
なぜなら聖霊は動機を持ち、判別し、理解することが出来るからである。
- **聖霊は「感情」を持っている。**
なぜなら、聖霊は感じる事が出来るからである。
- **聖霊は「意志」を持っている。**
なぜなら、聖霊は決定し、行動する力を持っているからである。

私たちが聖霊を人格として認める理由の一つは、**聖書は聖霊に対していくつかの名称を述べている**ことである。これらの中でも、最も素晴らしいものの一つは「**助け主**」という名称である。イエスは「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう」と言われた（ヨハネ 14:28）。

さらに**聖霊が人格である**ことの証明は、**聖霊が行なわれたことの中に見られる。**

- ① **聖霊が教え**(ヨハネ 14:26)、②**聖霊が祈り**(ローマ 8:26)、③**聖霊が命じ**(使徒 16:6,7)、また④**聖霊が証している**（ヨハネ 15:26）ことに注意していただきたい。

聖霊はまた人格として扱われている。ペテロによればアナニヤは聖霊を欺いたと言われていた（使徒 5:3）。私たちは聖霊を悲しませることが出来る（エペソ 4:30）。これらのことから、ばく然とした感化力については言えないことである。

■ 聖霊の神性

聖書は聖霊を明らかな人格として示しているばかりではなく、**聖霊の神性、すなわち聖霊が神である**ことを指摘している。

使徒行伝 5 章におけるアナニヤの欺きの事件は、聖霊の神性を教えるものである。ペテロはまず、聖霊を欺いたアナニヤを責め（5:3）、次の節ではこのことは神を欺いたことだと言っている。

さらに聖霊の神性についての証明は、**聖霊について記されている神的な特質の中に見いだされる。**例えばヘブル 9:14 には「**永遠の聖霊**」とあり、詩篇 139:7-10 にはダビデが、「私はどこへ行って、あなたのみたまを離れましょうか」と叫んでいるように、**聖霊は遍在する**ことを指摘している。ルカ 1:35 には**聖霊が全能である**ことが示され、第一コリント 2:10,11 には、**聖霊は全知**であり、すべてのことを知っていると述べられている。**ただ神のみがこれらの特質を持っているのである。**

また**聖霊の創造的な力**に注意されたい。創造において生命をもたらしたのは聖霊であった（創世記 1:2）。**聖霊こそ、人間を新生させ、新しく創造するお方である。**イエスはニコデモに、聖霊によって人間は新しく生まれるということを語られた（ヨハネ 3 章）。

キリストを死からよみがえらせられたのは聖霊であった。死人の復活において私たちをよみがえらせるお方は聖霊である。

■ 聖霊の名称

聖霊の名前と称号とは、意味深いものである。なぜならそれは聖霊の性質と働きを示している。例えば聖霊は、しばしば第1コリント3:16にあるように「神の御霊」と呼ばれている。これは聖霊が父なる神と特別な関係を持っていることを意味している。ちょうどアブラハムの僕（しもべ）エリエゼルは、イサクが花嫁をめとることにおいて、彼の主人を代表しているように（創世記24章）、聖霊はこの時代に、キリストの花嫁なる教会を求め神の働きを実行しているのである。

三位一体の神の第三位なるお方は時々、ローマ8:9のように「キリストの霊」と呼ばれている。ある人々は、これらは二つの違った霊であるという誤った考えを持っている。

しかし、そうではない。信者は異なった二つの霊を持つことは出来ないのである。聖霊はキリストの名によって来る。聖霊の特別な働きは、神の御子に栄光を帰することである。それゆえ、聖霊は「キリストの霊」と呼ばれているのである。

聖霊について記されているすべての称号を述べることは不可能である。しかし、最もすばらしいものの一つは「いのちの御霊」（ローマ8:2）である。イエスが彼に従う者たちに約束されたいのちは、聖霊を通して来るのである。聖霊によって罪の力と霊における死はうち破られる。そればかりではない。いやしがなされるのも聖霊のいのちを与える力によるのである。そして、やがてある日、聖霊がキリストを死からよみがえらせたように私たちの朽ちる体にいのちを与えるのである。

クリスチャンは自らが神の世嗣（よつ）ぎであり、キリストと共に御国（みくに）を嗣ぐということ喜びとしている。それは一体どのようにして来るのであろうか。それは聖霊の働きを通して来るのである。ローマ8:15には「子たる身分を授ける霊」と呼ばれている。私たちが神の子であることを認めるのは、聖霊の証しによるのである。

聖霊は「きよめの御霊」として、個々の信者に対して大きな意味を持っている。聖霊を認め、この特別な働きに添うならば、多くのクリスチャンがなしている、むなしいきよめへの無益な求めを排除するであろう。聖霊は聖なる人格である。聖霊はきよめの大切な要素である。きよさは聖霊から放出されるものである。聖霊が私たちのうちに在（いま）し、私たちが神のかたちに回復し、きよめを求めさせ、罪に勝利する生活を送らせるのだということは、何という違いを私たちに悟らせてくれるのであろうか。ラルフ・M・リッグス氏は、「私たちのうちに在す聖なる御霊こそ、真のきよめの秘訣である」と言っている。

■ 聖霊の象徴

紙面の都合で聖霊の象徴のすべてについて解説することは出来ないが、ここに、そのいくつかを述べておく。火は聖霊の象徴として、最もふさわしいものの一つである。それは火のようなきよさを描いている。それは聖霊が燃えさせた火のような熱情を語っている。しかし、火はまた、聖霊の隣(あわ)れみある働きを拒む人々の前に置かれた審判を語っている。

ギリシャ語では聖霊と風とに同じ**プニューマ**[Pneuma]という語が使われている。後者の風は聖霊の象徴にふさわしいものである。**聖霊は実に神の息吹きである。**聖霊はペンテコステの日に、激しい風のように屋上の間にのぞみ、超自然的な力をもって、待ち望んでいた弟子たちの中に満ちあふれたのである。聖霊はなお、個々人の信者、またその群れの中に働いて神の臨在の思いを新たにさせてくださる。

聖書において、しばしば用いられている聖霊の象徴の一つは油である。それは王、祭司、預言者がその働きのために注がれるものとして用いられた。それはまた食用として、灯油として、いやしの効能として用いられた。これは聖霊についての真理を語るものではないだろうか。神の教会における特別な働きのために聖別するのは聖霊である。聖霊は私たちを養い、御言葉(みことば)に光を与え、悩む魂をいやすお方である。

質問)

1. 聖霊について、①再確認したこと、また ②新しく教えられたことは何ですか？